



FUJIEDA SOUTH ROTARY CLUB

藤枝南ロータリークラブ会報

例 会：毎週金曜日 小杉苑 藤枝市青木2-35-30 TEL：054-641-3321
 事務局：藤枝市青木1-11-10 TEL：054-647-2300 FAX：054-647-2040
 E-mail: club1991@fujieda-rotary.org

会長：内山 淑夫 副会長：山田 壽久 幹事：竹田 敏和 副幹事：渡邊 博文

第1177回



■ 会長報告

内山 淑夫君

今日は満井ガバナー補佐様が大変ご無理を言って卓話をお願いしました。ロータリアンとしてミスターの付く方ですが、当然の



ように社会人としても、魅力ある生き方をされている方ですので、楽しみにして下さい。

さて、今月は母子の健康月間です。世界では 5 歳未満で亡くなる子供が 630 万人いるとの報告があります。水のこと、病原菌のこと、医療技術のこと、様々な原因によると思われますが、先進国と言われている日本は全く関係ないかと言いますと、どうもそうでもなさそうです。

日本の問題は幼児と母親ではなくて、母親と児童の生活の問題です。社会問題と言っても差し支えないと思います。これは社会に貧富の差が広がり、増加の一途をたどる母子家庭が経済的に大変厳しい状況に置かれていることによります。平成 23 年の統計ですと、何と 124 万世帯もの母子家庭があり、平均収入も普通の就労している母親の平均収入 291 万円に対して、181 万円となっております。小学校の給食費が支払えないとか、修学旅行に行けない児童がいるとか、テレビではある母子家庭の夕食風景をドキュメントしていました。食費を切り詰めて食パンだけの夕食風景です。ことばがでません。

ロータリーの職業奉仕は税金をたくさん納めたり、多くの人を雇用したり、職業能力を様々な形で提供するなどでしょうが、国内の母子の健康月間に、いちロータリアンとして、また、クラブとして何が出来るのかじっくり考えてみたいと思います。

■ 幹事報告

竹田 敏和君

- ・第 2620 地区より
青少年奉仕月間リソースのご案内が届いております。
- ・藤枝市国際友好協会より
FIFS NEWS が届いております。

■ 出席報告

平原 望君

本日のホームクラブ出席者	前回の補正出席者
36/47 76.59%	42/47 89.36%

(1) 欠席者 (事前連絡とメイクアップをどうぞ)

- 飯田君 ○伊藤君 ○植田君 ○多々良君
- 内藤君 ○森竹君 ○渡邊博君 佐野裕君
- 富澤静君 早川君

(2) メイクアップ者

- 森竹 正晃君 (藤枝・榛南) 玉木 末雄君 (藤枝南)
- 伊藤 彰彦君 (藤枝・藤枝南) 桑原 茂君 (藤枝南)
- 藪崎 宰一君 (藤枝南) 池ヶ谷 勇君 (藤枝南)
- 小林 正敏君 (藤枝) 松浦 正秋君 (藤枝)
- 山田 壽久君 (藤枝) 伊藤 恒夫君 (藤枝)
- 樽井 勉君 (藤枝) 若林 秀典君 (藤枝)
- 梅島 純夫君 (藤枝) 早川 清人君 (藤枝)
- 富澤 静雄君 (藤枝) 望月 誠君 (藤枝)

■ スマイルBOX

平原 望君

- ・先般は父 杉浦良一の通夜葬儀に際し、多大なご配慮を頂き 熱く感謝御礼申し上げます。多くの皆さまお見送り戴き、故人もさぞ喜んでいることと存じます。今後残されました杉浦聡を皆様で可愛がって、可愛がって、可愛がって頂ければ幸いです。今後とも、何卒よろしくお願ひ申し上げます。
- 杉浦 聡君

・満井ガバナー補佐のご来訪を歓迎申し上げます。
所要により欠席し申し訳ございません。

富澤 静雄君

・25周年旅行口座開設の為にドネーションしました。

内山 淑夫君

・4月2日のお花見例会には、たくさんの会員の皆さまに出席して頂き、大成功で終わりました事、御礼申し上げます。又、「ぶんみやあ」スタッフの出演料のカンパにも大勢の皆様が心良く応じて頂きありがとうございました。

カルロス 飯田君

・誕生プレゼントありがとうございました。お兄さんからおじさんへ、やがておじいさんへと…人から呼ばれて初めて気がつく見た目です。

江崎 直利君

・誕生日プレゼントありがとうございました。毎月、行事に追われているためか、あっという間に72才になってしまいました。

小山 明良君

・誕生祝い有難うございます。還暦をすぎて61才になってしまいました。

梅島 純夫君

・誕生日プレゼントありがとうございました。四捨五入すると最後の50代になりました。

漆畑 雄一郎君

・誕生日プレゼントありがとうございました。信じられないかもしれませんが還暦です。年金を払わなくてもよくなったと前向きに考えています。

若林 秀典君

・妻の誕生日プレゼントありがとうございました。

朝比奈 潔君

・結婚記念のプレゼントありがとうございました。31年何とかやってきました。

竹田 敏和君

・結婚記念のお祝いありがとうございました。毎日口ケンカが絶えませんが「ケンカするほど仲がいい」と自分に言い聞かせて耐えています。

鈴木 照竟君

スマイル累計額 583,000円

ガバナー補佐卓話

満井ガバナー補佐



特別寄稿

学生の立場に立った「個別対応型の採用」を

公益財団法人 就職支援財団 理事長 満井 義政



＜要旨＞

◆静岡県では生産年齢人口の減少に加えて、特に若年者の県外への流出が続いている。県内の高校生の進路状況を見ると、卒業者の54%が大学へ進学し、そのうち72%が首都圏や中京圏など県外の大学へ入学しており、静岡県は代表的な人材供給県になってしまっている。

◆2016年3月卒の大卒採用では、売り手市場となったことや採用スケジュールの変更に影響が大きく、首都圏を中心とした大都市圏での囲い込みにより、県内企業の手数超で会社説明会や面接の参加者が減少、内定辞退者は前年より増加している。このような状況で、2016年1月以降も採用活動を継続している企業が4割にのぼるなど、県内企業は新卒採用に大苦戦している。

◆今後、中小企業は学生目線に立った「個別対応型の採用」への転換が必要になる。そのためには、①共通エントリーシートの導入、②交流会型の企業説明会の実施、③内定理由の通知を柱とする「静岡県採用サポートシステム」を導入することが有効となるだろう。

◆新卒採用を含め、雇用の問題は地域で解決していく必要がある。県内の経済団体、大学などが、連携して地域の実情を分析し、中小企業に特化した対策を実行するなど、学生と企業をサポートしていかねばならない。

首都圏に飲み込まれる県内若年者

2015年の日本の生産年齢人口(15～64歳)は約7,680万人だが、2020年には317万人減少すると政府は推計している。同じく静岡県の生産年齢人口も、223万人から10万人減少する見通しだ。若年労働者の減少と退職者の増加は少子高齢化の結果であり、今後も減少傾向は継続するとみられる。

静岡県の雇用を考えると、少子高齢化に加えて、人口の移動で県外への転出者が転入者を上回る転出超過が大きな問題になっている。2014年は7,240人の転出超過(全国ワースト2位)で、15年は6,206人(同5位)と人口流出に歯止めがからず、特に15～24歳の若い世代の転出超過数は4,161人で、転出超過数の67%(14年は51%)に達している。

一方、東京都は8万1,696人の転入超過で、そのうち15～24歳は6万5,600人と超過数の

特別寄稿 学生の立場に立った「個別対応型の採用」を

80%を占める(図表1)。

特に、東京、名古屋、大阪の3大都市圏近郊に位置する都市の転出超過が著しい。静岡県をはじめ、兵庫県(転出超過数7,409人・全国ワースト2位)、岐阜県(同5,194人・同8位)、茨城県(同4,826人・同9位)、新潟県(同6,735人・同3位)などがその例になる。

次に、静岡県内の高校生の進路状況を見てみよう。2015年3月卒業者は3万2,404人。このうち54%の1万7,450人が大学に進学し、大学進学者のうち72%の1万2,577人が県外大学に入学した。首都圏の大学には7,160人(57%)が、中京圏には2,135人(17%)が進学している(図表2)。

このことから、県内の若年者が首都圏に飲み込まれていることがわかる。東京・神奈川と愛知に挟まれた静岡県は、代表的な人材の供給県になってしまっている。

苦戦した2016年3月卒の大卒採用

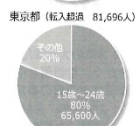
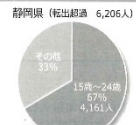
文部科学省と厚生労働省は、2015年12月1日時点での16年3月卒の大学生就職内定率が80.4%になり、前年同期に比べ0.1ポイント上昇したことを発表した。これは、5年連続の上昇である。

では、静岡県内企業の新卒者の採用状況はどうだったのか。当財団が県内企業を対象に実施した2016年3月卒「新卒採用に関する追加調査」(15年12月末)から、振り返ってみる。

応募者減、内定辞退者増に苦戦

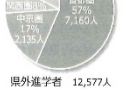
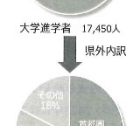
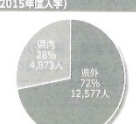
同調査によると、学生の応募者数が前年と比べ

図表1 静岡県の出出状況と東京都の転入状況(2015年)



資料：総務省「住民基本台帳移動統計」

図表2 静岡県内高校出学者の都道府県別大学入学(2015年度入学)



資料：「平成27年度静岡県高等学校基本統計」

説明者の人柄(出身地、卒業大学、趣味など)を伝え、学生と共感できるように心がけたい。さらに企業志向の学生も、中小企業で働く人が直接話すことによってその企業の強みや魅力を伝えられ、中小企業への志望度が上がるだろう(写真、図表9、10)。

ホームページも企業の理解を高めるツールだ。残念ながらホームページが学生向けではなく、顧客向けの内容になっていることが多い。学生にとって理解しやすい用語や表現は避けたい。たとえば優れた技術や商品を紹介する場合は、技術や商品が出来上がる過程で必要となる社員の数や能力を紹介したらどうか。企業の求めている能力や人材像が、よりわかりやすく伝わることだろう。

③ 内定理由の通知により辞退防止を

採用人数が不足する原因の多くが、内定辞退によるものである。1人の学生が県内企業から受ける内定数の平均は約2社。つまり、1人1社は内定を辞退している計算になる。

最終選考を終えた学生は、1日でも早く内定通知が来ることを願っている。そのため、複数社を受験していれば早く内定が出た方を受諾する傾向がある。採用したい意向を強く伝えるためには、内定通知を最終選考日の当日か、遅くとも1〜2日後には出したい。また、同時に内定の理由も伝えたい。企業とその学生に対する期待感が具体的に伝われば、学生の入社意欲は強固になるだろう。内定理由が聞けない企業との差は大きい。

こうした①共通E Sの導入、②交流会型の企業説明会の実施、③内定理由の通知という3点を自社の採用活動に取り入れて、中小企業ならではの細かい学生目線に立った「個別対応型の採用」

手法を心掛けたい。

学生の情報ネットワークは、ゼミ、サークルなどが中心だ。先輩から伝達される、進路や会社情報、仕事の内容は、就活生にとって重要な情報源になっている。企業の採用が毎年継続されれば先輩の生の情報が伝わる。また通年採用、専門学校生の採用、中途採用も含めた、広範な人材採用の長期計画を立案することも大切になる。

地域の雇用は地域で支える

こうした新卒採用を含め、雇用の問題は地域の課題でもあり、地域の特性にあった解決策が求められる。就活スケジュール、インターンシップ、共通E S、情報発信など、採用・就職活動に関して全国統一ルールで実行することは、地域の事情と合わない場合もある。

県内の経済団体、大学などが、連携して地域の実情を分析し、中小企業に特化した対策を実行するなど、学生と企業をサポートしていかなくてはならない。

さらに、学生が厳しい就活を終え、納得して企業に入っても、十分な成長の機会が得られず短期間に転職してしまうケースも多い。厚生労働省の「就労条件調査」も示すように、企業の教育訓練費は減少傾向にあるが、インターンシップの推進とともに、地域で共同の研修教育制度などを考えることが肝要だ。静岡県経済4団体が3年前から中小企業の新入社員を対象に「合同入社式」を開催していることは、地域で働く若年者を応援する施策として注目したい。これに合同研修会が加われば、地域課題がひとつ解決に向かうことになる。

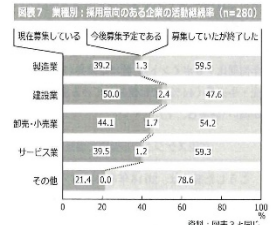
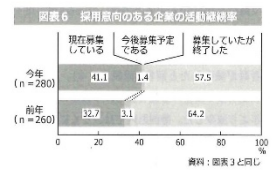
が8月から6月に再度変更になる。県内企業はその影響について「特に変わらない」としつつも、「早めに活動を開始する」、「合同企業説明会等のイベント参加を増やす」などの対策を考えている。具体的には、業界セミナーへの参加、大学内の合同企業説明会への参加などを増加させるとしている(図表6)。

一方、首都圏などの一部の企業は、3月以前から採用活動の一環として、短期インターンシップ、業界セミナー、リクレーターによる面談などにより学生との接触を増やしている。

採用の前提は、応募者を確保することであり、学生の企業理解が欠かせない。そのため、大学1・2年生の早い時期からのインターンシップ、職場体験、企業研究セミナーの実施などが重要になる。就活前の3年生を対象としたものはおさらいだ。仕事内容を教える以外に、仕事の喜びや企業の理念などを知ってもらうことは、企業活動に対する学生の興味を上げ、応募者の拡大につながる。

「静岡県採用リポートシステム」の有効活用を

これまでの採用手法は、大量採用型が一般的であった。大量の学生のエントリーを受け付け、いくつもの関門を用意して絞り込み、最終的に直接して内定を通知し、採用を決める。この仕組みは、企業も学生も多くのエネルギーを費やすが、多様な新戦力を手に入れることができる大手企業にとっては有効な手法であった。しかし、県内の大半の中小企業は、5人以下の採用計画であり、学生目線に立った、丁寧で素早い対応ができる「個別対応型の採用」に転換していく必要がある。図表7



で減少した企業は50%と半数にのぼる(前年比+6ポイント)。そのうち、従業員数100〜299人の企業では58%が、300人以上では49%が応募者数が減少したと回答(図表3、4)。また、会社説明会や面接の参加者数も、半数超の企業が前年より減少した。静岡県内では、とくに西部地域での減少が目立つ。

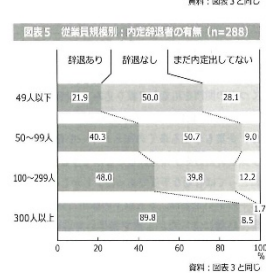
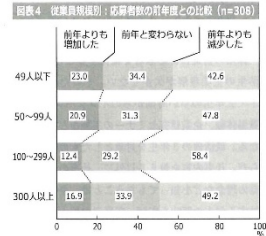
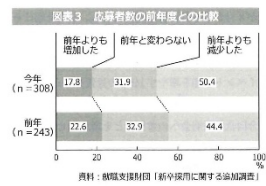
内定の辞退者も前年より多く、従業員数300人以上では90%近くの企業で内定辞退者が出ている(図表5)。このような状況下、2016年1月以降も採用活動を継続している企業は41%あり(前年同期比+8ポイント)、特に建設業(50%)、卸売・小売業(44%)では継続している企業の割合が高い(図表6、7)。

採用スケジュール変更で混乱

こうした変化は、2016年卒の採用・就職活動のスケジュールが大規模に変更になったことも影響しているとみられる。企業説明会など広報の解禁は3月から(前年は12月)、面接などの選考解禁が8月から(同4月)に後ろ倒しになった。そのため、多くの学生が冬、春の休暇中に企業研究が十分できなかったり、協定が守られず大都市圏での内定時期が早かったため就活市場が混乱したり、企業説明会の日程などの情報が的確に届かず参加学生が著しく減少する、といった現象が起こった。この調査結果からも、県内企業の採用は予定通り進まず、人手不足の傾向がさらに深刻化しているとみられる。

2017年3月卒の新卒採用への取組み

2017年3月卒の新卒採用は、選考解禁時期



※しずおか産学就職推進協議会：静岡県内における就職・雇用のミスマッチを解消し、互いに満足できる就職・採用活動が行える仕組みとして企業と学生が互いに協力を進め、関係づくりを促進するため、平成23年12月に設立。メンバーは、静岡県内の就職5団体を中心として、経済連・大学コンソーシアム(県内23大学)。

こうした状況をふまえて、しずおか産学就職推進協議会では「静岡県採用サポートシステム」を推進している。このシステムは、中小企業と幅広い学生を結び付け、定着率の高い人材の採用を支援するものである。特に採用人数が5人以下の中小企業が抱える課題に対応する形で、①共通エントリーシート(以下共通E S)の導入、②交流会型の企業説明会の実施、③内定理由の通知の3つを重要視している。

① 早期に活動を開始し、共通E Sの導入を

まず、就職活動で学生たちが努力を要するエントリーシートの簡略化を考えたい。連絡会が推進する共通E Sは、学生の基本情報のみを記入するのに留めたもので、応募のハードルを下げる狙いがある。エントリーの段階で必要以上に負担を掛けるのは応募者を減らすことになる。志望動機や自己PRは、学生から直接聞き方が良い。学生の本音が聞ける好機であり、これができるのは小回りの利く中小企業の利点だ。まずは直接会うことを優先したい。

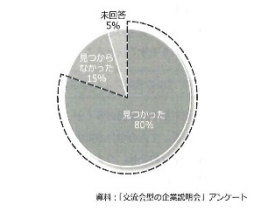
② 「交流会型の企業説明会」で魅力発信を

次に、学生が興味を示すきっかけになるのは「入=企業で働いている人」である。当初、就職希望先ではなかった企業でも、魅力的な社人との出会いがあれば、そこが新しい志望先になる場合がある。2014年から県内で実施している「交流会型の企業説明会」の参加学生、参加企業の満足度が高いのはその典型的事例といえる。この説明会では、3〜5人の学生が1社につき15分程度で指定された5〜6社の企業ブースを順次回り、最後に希望企業と3社程度面談する。

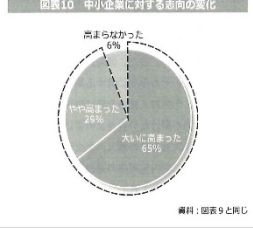
写真 「交流会型の企業説明会」の様子



図表9 新たな志望先発見の有無



図表10 中小企業に対する意向の変化



今日は4月8日、お釈迦様がお生まれになった日です。残念ながら世間の認知度は低く、街で「今日は何の日？」と聞けば、多くの方は「知らない」と答えるでしょう。これが12月25日に「今日は何の日？」と聞けば、ほとんどの人は「クリスマス」と答えるでしょう。キリストさんの誕生を祝うと言うよりイベントとして根付いていますが、考えさせられる事実です。この時期は桜が咲き、その美しさに感動し、日本に生まれたことを誇りに思う、一年で一番いい季節です。各地で「桜まつり」が開催されていますが、コラボしてもっと盛り上がればなあと思います。各寺院では花御堂を設け、誕生仏に甘茶を掛けてお祝いします。もうすぐ新茶の季節です。静岡にはおいしい緑茶があります。緑茶は健康にも大変いいです。甘茶を緑茶に替えてPRするのも一考かな・・・とお茶を飲みながら思案しています。そして、日中は健康にいい「お茶」をたくさん飲んで、夜はおいしい「おちゃけ」を少々嗜み、日々健康に過ごせるように願っています。

4月のお祝い
おめでとうございます！



例会プログラム

例会日	クラブ行事	摘要
4/15(金) 第 1178 回	地区協報告	
4/22(金) 第 1179 回	健康セミナー②	
5/6(金) 第 1180回	外部卓話	
5/13(金) 第 1181 回	青少年奉仕委員会 担当	

(担当／渡邊芳君)